

## 特色ある研修の紹介

今年度は、さみさと小学校、五箇庄小学校の2校が、推進校等の指定を受け研修を深めてこられました。その一端を紹介していただきました。

### 小学校教育研究会研究推進校 「総合的な学習の時間」部会

#### < 「総合的な学習の時間」の実践から >

朝日町立さみさと小学校 教諭 能登 千春

今年度、さみさと小学校は、小教研研究推進校としての指定を受け「総合的な学習の時間」に取り組んでいます。昨年までの英語活動の研究を通して身に付けてきたコミュニケーション能力を生かして「家族、仲間、先生、地域の人々、さらに自然や文化とのかかわりを大切にすること」そして、「自分で問題を見つけ、自分で考え、判断しよりよく問題を解決する力を育成すること」を重点として研究を進めてきました。

4年生の実践「ともに生きるわたしたちーお年より みんなに やさしくー」では、子どもたちは、家庭・地域でお年よりにかかわってきた自分の取り組みを振り返り、体験に基づいて、自分が影響を受けたこと、変わってきたことを自分の言葉で一生懸命表現しました。老人施設を訪問したり、敬老会に参加したりした体験から相手に安心してもらうにはどのようにしたらよいかを考え活動に生かした子ども、介護の問題について考え、ともに生きていくにはどうすればよいのか考えを深めていった子どももいました。



6年生の実践「今の自分を見つめようー郷土のすごい先輩に学ぶー」では、1学期は自分の成長を振り返る自分史づくり、2学期は自分を見つめ「こんな自分になりたい」という願いをもって追究し、3学期は夢の実現に向けて今後の生き方を考えるという年間を通して生き方を考えるという単元を構想しました。子どもたちは、自分自身を意識し、しっかり考えながら追究を深めました。



来年度に向けて、本校の子どもたちの力を伸ばすことができるような「さみさと小学校の総合的な学習の時間」について各学年での実践を振り返り、検討を重ねています。今後は、新教育課程での単元構想、共通体験や各自の体験をどのように仕組むのか、話し合いのねらいの明確化と成果の確認などについて全体の研究を積んでいこうと考えています。

## とやま型学力向上プログラムの普及・啓発に係る実践研究

### <心ほのぼので、学び合い>

朝日町立五箇庄小学校 教諭 四杉 貴美

本校は、今年度、富山県教育委員会から「とやま型学力向上プログラムの普及・啓発に係る実践研究」の委託を受けました。そこで、「とやま型学力向上プログラム」の柱となる「学び合い」「体験」という2つのキーワードをふまえ、「学び合いを通して人間関係づくりと学力向上を一体的に進める授業」、「体験を通して身に付けた知識・技能を活用する授業」に視点を当て、教員一人一人が授業の改善に取り組んできました。

「学び合い」とは、子どもたちが互いに教え合い、認め合い、支え合いながら自分の追究を深め、自分自身を見つめ直していく姿ととらえ、授業の中でより子ども同士のかかわりが生まれるようにと、ペア学習やグループ学習を取り入れた学習形態や、自分の考えをもち互いの考えをかかわらせるような学習過程などを工夫してきました。



1年生の体育科「シュートゲーム」の学習で、こんな場面がありました。チーム内で今日の活動を振り返り、がんばった友達（きらきら賞）を見つけているときのことです。ゲームではなかなか活躍の場がなかったAさんをきらきら賞として紹介したグループがありました。Aさんが一度もきらきら賞をもらってないことに気づいた子どもたちは、みんなでAさんのよかったところ

を見つけ始めたのです。そして、Aさんは、きらきら賞として全体の前で紹介されました。Aさんはもちろん、グループの子どもたちもみんなにこここ…。単元全体を通して、共にいろいろな活動に取り組み練習を重ねてきた子どもたちは、シュートゲームのルールや技能だけでなく、友達のよさを認め合う温かい心も学んでいました。

授業の中で、子ども同士がかかわり合う場を意図的に設けることによって共に学び合おうとする姿が見られるようになりました。しかし、どんな目的でどの段階で、ペアやグループ学習を取り入れるか、体験をどのように単元に組み込むかなど、まだまだ課題も残されています。今年度の成果と問題点を明らかにし今後の研修につなげていきたいと思えます。

